

# やまんなか便り

発行元：南山城村役場 産業観光課

発行日：令和6年2月1日



開館：水・金・土  
10時～16時

## やまんなか ランチ会



↑前回のメニュー

先月は、大好評！おでんの会となりました★  
2月もまだまだ寒い日が続きます。あったかいメニューで、皆さんのご参加お待ちしております！

参加者さんからの差し入れをみんなでよばれたりして、ランチ後ものんびりおしゃべりしていますよ！  
お気軽にご参加ください◎

【日時】R6年2月21日(水)

【時間】12時30分～

【参加】600円程度 ※未就学児以下無料

【申込】要予約。お電話またはメール、スタッフまで

※万が一、参加希望が多い場合は、人数を制限する場合があります。

空き家バンク  
アドバイザーの  
空き家  
無料相談会  
同時開催！



移住交流スペース「やまんなか」(田山の郵便局のお隣り)

田山上フケ 10-4 ☎ 0743-94-0666

✉ murapura163@gmail.com



鼻笛・オカリナなど

## みんなで笛を吹こう

2/18の文化の集い出演に向けて、練習します。ひやかし、見学も大歓迎！お気軽にお立ち寄りください♪

【日時】R6年2月14日(水)

【時間】10時～12時

【参加】無料(出入自由)



デザイナーしろちゃんに教わる

## ※インスタ講座

インターネットのSNSでより効果的に発信できるようになるための勉強会です！  
初心者大歓迎(^ ^)/

【日時】R6年2月21日(水)

【時間】14時～15時30分

【参加】無料・定員8人・要予約

※インスタグラムのこと



手づくりを楽しみたい

## ちくちく手しごとの会

各自の手仕事を楽しみましょう♪2月は一緒にマイ箸袋作りをしたい方、募集！



【日時】R6年2月16日(金)

【時間】13時30分～

【参加】無料、※箸袋は材料費200円程度必要です

南山城村から発信！

## ZINE(ジン)の会

ジンとは、いわゆる同人誌。個人製作冊子です。自由に発信するための紙冊子「ZINE」を一緒に作ってみませんか？

【日時】R6年2月14日(水)

【時間】14時～

【参加】無料(出入自由)



## <来月のイベント>

●2/17 やまんなかデッキ作り  
は3月以降に延期します。

●3/12(火)～17(日)

といろの会 作品展週間

※期間中は様々なイベント考え中！

# 1/20(土)「親子でむらぐらしツアー」の主観レポート(笑)

移住交流推進員

野崎弘之

1/20(土)、山城広域振興局主催の「京都府南部 移住現地ツアー」が行われました。子育て世代の移住希望ファミリーが2組参加されていて、移住交流スペース「やまんなか」にも訪れてくれました。驚いた事に、この2組とも「奥様は日本人、ご主人様が外国人」だったのです！なんだか国際的な雰囲気の中、この日の「やまんなか」では実際に子育てをしている先輩移住者をお招きし、お昼ごはんを食べながらの交流会というプログラムでした。先輩移住者として童仙房在住の坂内里恵さんと、田山在住の大久保利子さんにお越しいた

京都府 南部 移住現地ツアー  
**親子でむらぐらしツアー**  
これが南山城村の子育てだ！  
2024  
**1月20日(土)**  
9:40~15:30  
JR加茂駅 西口集合・解散  
参加費 無料  
昼食代は自己負担をお願いします  
定員 10名(先着順) 最少催行人数3名  
申込 京都府移住情報サイト「今日と明日」  
<https://www.kyoto-iju.jp/>  
〔主催〕京都府山城広域振興局地域づくり振興課  
☎ 0774-21-2186  
✉ y-n-chiiki@pref.kyoto.lg.jp  
〔共催〕京都府移住センター



だき、移住のキッカケや村での暮らし・子育ての現状などを聞いていただきました。そもそもこういう「現地ツアーに参加する」という事実自体がいわゆる**本気度が高い**という指標になってしまうのですが、お話を伺うと2組のファミリーはかなり真剣に移住先を探しているように思えました。そんなファミリーにとって、この先輩移住者の実話は「移り住むエリアを選ぶ上で重要なポイント」となる大切な時間になった

のではないのでしょうか。もちろん最終的な決め手は物件次第なのですが、闇雲に「不動産会社で物件探しをする」なんて事はこんな田舎ではできる筈もなく(-\_-)、やはり移り住む前に「**地域の方々と何かしらの関係性を築く事が重要**」のではないかと、改めて考えさせられました。また同時に、移住する側の要望は多々聞かされる機会がありますが、受け入れる地域側の要望を事前に聞いておく必要性があるとも強く感じました。ましてや「旦那様が外国人」となると、地域の皆さまからの余程のご理解をいただかないと、簡単に「移住促進」なんていう政策や言葉だけでは済まされないような気持ちにもなりました。「何のための移住促進？」と自身に問いかけてみて、ただの「人口減少の補填」なんかでは決してなく、**地域の魅力**を維持、あわよくば向上させる事こそが本来の目的なのではないかと思ったのです。



だからこそ、いつも移住希望者に対して、まるで面接官のように対峙してしまう自分が存在するのです(笑)。個人的に、「誰でもいいから空き家を使ってください」なんて事だけは言いたくないですし、空き家の問題をもっと地域の方々と一緒に話し合っていく年にしていきたいと思っています。